

# 見に来るテレビ

特集—フジテレビ本社ビル

フジテレビは、1997年、東京都新宿区河田町から港区台場に本社を移転し「開かれたテレビ局」として、多くの観光客が訪れるお台場のランドマークとなっている。

フジテレビは今年開局55周年を迎え、更なる「楽しさ」を追求し続けている。





## そうだ、テレビ局へいこう

お台場のフジテレビ本社ビルは、一般的なゲストを積極的に招き入れる構造と空間が備わり、「いつでも、誰もが訪れて楽しめる放送局」として開かれている。

天気予報にも登場する屋上庭園は空にも海にも吹き抜けて開放感にあふれ、まわりを見渡せばドラマの舞台にもなった風景が広がる。本社ビル5階のワンダーストリートには、放映中の人気番組のセットや貴重な展示品が並び、フジテレビを体感できるエリアとして訪れる人が絶えない。

見学できるエリアと実際の制作現場はセキュリティで区分されているが、開放的な構造でガラス張りの本社ビル内に足を踏み入れると、すぐそこでテレビ番組が制作されている空気を感じ取ることができる。さらには、施設内のあらゆる場所でリアルタイムの情報が発信されることも、臨場感を引き立てる。視聴者を呼び込んで画面の向こう側を体感する楽しみを提供し、訪れる視聴者の笑顔を間近に感じながら番組を制作するという双方向の関係性を、この建物が実現している。



ゆりかもめ「台場」駅を出ると正面に臨む大階段や、歩道から伸びるチューブエスカレータが、テレビの世界へのアプローチとなる

## すべてをエンターテインメントに

「人を楽しませるためには、まず自分たちが楽しまないと。そういうた習慣が社風として根付いているので、社員はいつでも何にでも全力投球なんです」とフジテレビ総務局の中野氏は話す。

「局対抗のごみ分別キャンペーンには、社長自ら登場する啓蒙の映像やキャラクターを使った分別の仕掛けも登場させて盛り上げました。インパクトがあつたので、今でも社員によるごみの分別は積極的に行われています」社内行事やCSR活動さえもエンターテインメントにしてしまうお祭りスピリッツが、本社ビルを本気のアミューズメントスポットとして成立させ、イベント事業の成功にも活かされている。



局で出た機密文書は館内各所の共用廊下にある「ようかいくん」に食べてもらう



## お台場のランドマーク

フジテレビ本社ビルは移転当初より、お台場のランドマークとしてあり続けてきた。格子状の構造と通称“はちたま”と呼ばれる球体展望室との組み合わせは、シンボリックな建築として圧倒的な存在感を放ち、まさにお台場の代名詞である。「フジテレビと言えばお台場」「お台場と言えばフジテレビ」という、地域と一体化した存在として局を構えている。

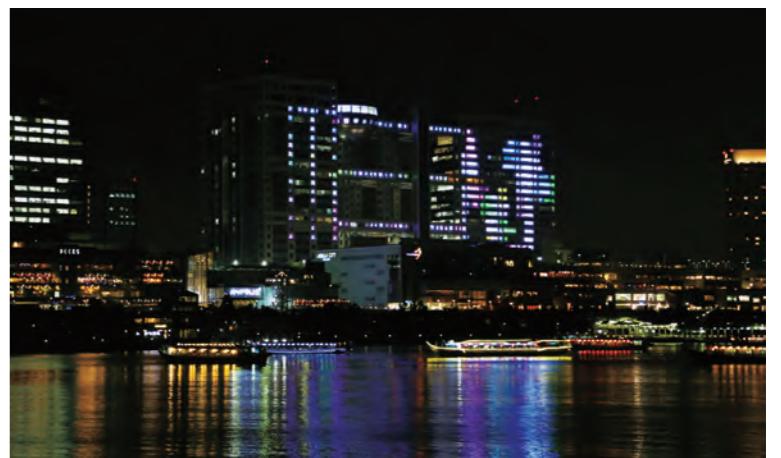


## お台場の賑わいを導く

フジテレビ本社移転前の台場エリア一帯（臨海副都心）は、東京都の第7番目の副都心として、国際化・情報化を念頭に開発が進められていた。そこに、先陣をきって企業参入に名乗り出たのが、フジテレビだった。本社移転後、番組やイベント等で積極的なお台場への知名度の向上に取り組み、ショッピング・レジャー施設やオフィス等の進出を促進した。加えて、りんかい線も全線開通し（2002年）、お台場は活気あふれるまちへと変貌を遂げた。

フジテレビ恒例の夏の大イベントは、移転前の新宿区河田町で、近隣住民に向けて行われていた「フジテレビ祭り」をルーツとする。ライブステージや屋台、体感型アトラクションで賑わい、今では夏のお台場の代名詞にもなっている。お台場全体が夏祭り会場になったかのように、多くの家族連れやカップル、若者同士のグループで賑わい、夏休みの思い出づくりを楽しんでいる。

「当社の立地は、まだまだ開発の可能性がある地域であり、6年後にはそのお台場が東京オリンピックの開催地となります。お台場の活性化を牽引してきたという自負もありますので、視聴者の期待に応えられるよう、全社をあげて取り組んでいきます。間違いなく当社ビルのカタチが世界に注目されますから、手始めにあの球体をピカピカに装飾してみようかと話しています」と、フジテレビ総務局の椎名氏は話す。



写真上：本社ビルの壁面（窓）を使ったイルミネーションイベント「GLITTER8」。LEDライト照射による演出のため、17時になると社員が一斉にブラインドを下げ開始にそなえる

写真下：フジテレビ本社ビルから見る台場エリア。1974年開館の船の科学館から2012年開業のダイバーシティ東京プラザと、お台場の街並みの変遷を見渡せる

## FCGビル（フジテレビ本社ビル）



鹿島建物管理概要 管理開始 1997年4月  
管理内容 清掃業務  
管轄 清掃事業部

### 建築概要

施設名称 FCGビル  
所在地 東京都港区台場2-4-8  
主要用途 テレビ放送局  
建築主 フジ・メディア・ホールディングス  
設計 丹下健三・都市・建築設計研究所  
施工鹿島建設株式会社  
面積 延床面積 141,825.438m<sup>2</sup>  
敷地面積 21,102.220m<sup>2</sup>  
構造 S造、一部SRC造

TALK  
TO 対談  
TALK



# 信頼でつくりあげる環境

## 開かれたテレビ局で働く

**総務局総務サービス部 部長 中野様** 我が社は業務が多岐にわたり、清掃やゴミ処理等の規模も大きいので、本社ビルにはクリーンセンターを設けています。なかでも鹿島建物さんには、オフィスフロアと役員室、球体展望室や外構などの公共スペースを中心に清掃を依頼しています。

**中村** 本社ビル内の清掃は、テレビ局だからという特殊な業務はないのですが、テレビ局で働くスタッフとして、館内におけるマナーや守秘義務などはクリーンクルー一人ひとりに徹底しております。

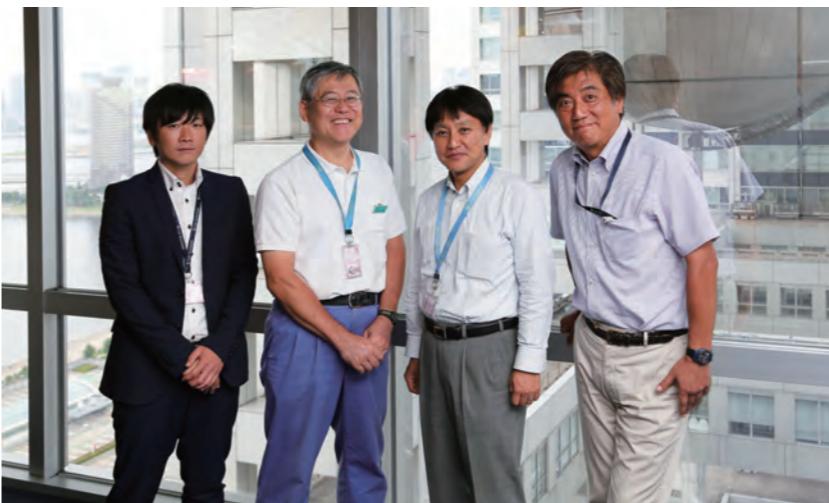
**総務局社内環境推進部 部長 椎名様** 鹿島建物さんとは竣工当初からお付き合いがあり、信頼して業務をお願いしています。

**佐々木** 御社の物件を担当させていただいたことが、弊社の清掃事業部を立ち上げるきっかけになっていますので、そのように言っていただけるのはたいへんうれしく思います。



**中野** イベント期間中も含め、普段から一般開放しているエリアも鹿島建物さんにお願いしているのですが、誠実で迅速な対応をしていただいているので、こちらも安心しています。

**中村** ありがとうございます。夏のイベント時にはクルーを増員する等、柔軟な対応ができるよう体制を整えています。また、一般の方が多く来場され、カーペットや壁の汚れも増えますので、イベント後には一斉に大掃除を行います。



## 仲間の一員として

**佐々木** フジテレビさんのスタッフを大切にされる姿勢にはいつも驚かされます。当現場からも、クリーンクルーを暑気払いに呼んでくださったり、永年勤続を表彰していただいた等の報告を受けており、本当にありがとうございます。クルーも張り合いでをもって日々の作業にあたっています。

**中野** フジテレビには、昔から「人とのコミュニケーションを大切にする」という精神が根づいています。テレビは人がつくって、人が見るものであるからこそ、「人」を大事にしようという発想ですね。我々が気持ちよく働く環境を整えてくれるクリーンクルーの方々も含め、フジテレビで働くスタッフへの感謝は常に忘れないようにしています。

**佐々木** 環境づくりというと、災害時の体制は放送局ならではの特殊性もあると思われますが、我々鹿島建物との連携についてはどのように考えておられますか。

**椎名** 万が一災害が起きた時でも、情報を発信し続けなければならない放送局として

ての使命がありますから、そのためにもビルで働くすべての人の安全確保を第一に考えています。どの部門のスタッフが欠けても正常な放送業務を維持できませんから。災害時の緊急対応についても、鹿島建物さんをはじめ、フジテレビ本社ビルの全スタッフと連携して行っていきたいと考えています。

**中野** 台場地区は観光客も多く、災害時は帰宅困難者を受け入れる側にもなりますね。

**中村** 災害発生下における建物内の環境衛生管理なども、今後一緒に考えていきたいですね。これからも、フジテレビで働く皆さまや訪れる方々が安心して、快適に過ごせる環境づくりに、クリーンクルー一丸となって努めてまいります。



本社ビルのすべてのゴミが集められるストックヤード。その量は一日で象一頭分（4トン）になるという

写真右より

株式会社フジテレビジョン  
総務局総務サービス部  
部長 中野 良彦様

株式会社フジテレビジョン  
総務局社内環境推進部  
部長 椎名 秀光様

鹿島建物総合管理株式会社  
清掃事業部 フジテレビ本社ビル・湾岸スタジオ管理事務所  
統括所長 中村 哲夫

鹿島建物総合管理株式会社  
清掃事業部 業務グループ  
リーダー 佐々木 康之